

全国に16基の登れる灯台 海・山360度の雄大な パノラマ「尻屋崎灯台」



【尻屋崎灯台】

全国に16基しかない展望台へ

登れる参観灯台の一つである
「尻屋崎灯台」。レンガ造りとし
ては日本一の高さを誇り、本州

最北東端、海拔約45メートルに
せり出した展望台は、まるで3
60度の空中回廊のようです。

展望台の海側は北海道を望む
ほか、津軽海峡と太平洋の海
流が交わり白波が立つ様子を
観察でき、陸側は、下北の中心
にそびえる恐山山地から田名
部平野までの豊かな自然を望

できます。

尻屋崎沖は、ふたつの海流が
流れ込み豊かな漁場が育まれ
る方で、潮の流れが変わりや
すく、また春から夏にかけて北
東から吹く冷たく湿った風で
ある「ヤマセ」が濃霧を发生さ
せ、かつては海の難所とされて
いました。このような特徴をも
つて建設された尻屋崎灯台
には、日本で初めて「霧鐘」とい
う大きな鐘が設置され、濃霧
時には鐘の音で灯台の位置を
伝えていました。しかし2年後

【寒立馬】

かつて下北地方には、「田名
部馬」と呼ばれる比較的小ぶ
りで、寒さと粗食に耐え、持久
力に富む馬がいました。この馬
は現在の岩手県に生息してい
たとされる「南部馬」を祖とし
て、藩政時代から、主に軍用を
目的に外来種馬との交配に
よって大型体躯へ改良されてき
ました。しかし、戦後は農業に
おいても機械化が進み、農耕
馬・荷役馬の需要が次第に減
り、フランス産の大型肉用馬で
あるブルトン種との交配が進め
られるようになりました。

現在、南部馬の血を受け継
ぎます。

いでいるのは、寒立馬だけとい
われています。200年以上に
およぶ歴史の中で作り上げら
れ、人々と共に歩んできまし
た。平成14年に「寒立馬とその生
息地」が青森県の天然記念物
指定を受け、馬産風土があつた
尻屋崎沖は、ふたつの海流が
流れ込み豊かな漁場が育まれ
る方で、潮の流れが変わりや
すく、また春から夏にかけて北
東から吹く冷たく湿った風で
ある「ヤマセ」が濃霧を发生さ
せ、かつては海の難所とされて
いました。このような特徴をも
つて建設された尻屋崎灯台
には、日本で初めて「霧鐘」とい
う大きな鐘が設置され、濃霧
時には鐘の音で灯台の位置を
伝えていました。しかし2年後



いでいるのは、寒立馬だけとい
われています。200年以上に
およぶ歴史の中で作り上げら
れ、人々と共に歩んできまし
た。平成14年に「寒立馬とその生
息地」が青森県の天然記念物
指定を受け、馬産風土があつた
尻屋崎沖は、ふたつの海流が
流れ込み豊かな漁場が育まれ
る方で、潮の流れが変わりや
すく、また春から夏にかけて北
東から吹く冷たく湿った風で
ある「ヤマセ」が濃霧を发生さ
せ、かつては海の難所とされて
いました。このような特徴をも
つて建設された尻屋崎灯台
には、日本で初めて「霧鐘」とい
う大きな鐘が設置され、濃霧
時には鐘の音で灯台の位置を
伝えていました。しかし2年後

の1879年には霧鐘を打ち
鳴らす際に灯台の土台へ激震
が走るとして「霧笛」へと置き
換えられました。こちらも日本
初の導入となり、設置日の12月
20日は「霧笛記念日」に制定さ
れています。また、尻屋崎灯台
で使われた霧鐘は、現在、犬吠
埼灯台（千葉県）に展示されて
います。